

2022年度 湘南ヘルスイノベーションパークの環境保全に関する連絡会議議事要録

日 時 2022年(令和4年)6月30日(木)10時00分から

場 所 湘南ヘルスイノベーションパーク会議室

出席者 村岡地区自治町内会連合会、小塚町内会、小塚東町内会、高谷町内会、宮前町内会、
渡内町内会、渡内北町内会及び渡内西町内会の代表
武田薬品工業株式会社湘南ヘルスイノベーションパーク渉外、同サイトエンジニア
リング&オペレーションズおよびタケダビジネスソリューションズジャパンコー
ポレートサービス社員
株式会社KJRマネジメント社員
藤沢市役所 村岡公民館及び環境保全課職員

議題・内容

1 あいさつ

町内会、藤沢市、湘南ヘルスイノベーションパークの代表者あいさつの後、次第にしたがって進められました。

なお、所有者である三井住友信託銀行株式会社の出席については、所有資産の運用管理を委託している株式会社KJRマネジメントが、委任状により代理出席していることを説明しました。

2 議題

(1) 藤沢市からの報告

連絡会議の運営要領の変更について説明しました。

武田薬品工業株式会社湘南研究所が完成し、最初の連絡会議にて開催のルールをお示しし、出席者の承認を経て運用してまいりましたが、湘南ヘルスイノベーションパークの運営形態や藤沢市の組織も変わり実態と乖離していることから、現行の体制にあわせた改正をし、また連絡会議が環境に関する協定に基づくものであることから、藤沢市の出席者も環境保全部局と地域との連絡調整する部門に絞り、ご説明の必要が生じた場合には、他の部局の出席について調整するよう改正するものです。

異議がございませんので、案のとおり改正することとします。

次に報告事項です。市民団体一団体から湘南ヘルスイノベーションパークとの協定書の改定の経緯、組織体制、調査測定内容及び研究・業務・防災訓練などに関するご質問・ご要望をいただいております。湘南ヘルスイノベーションパークおよび市から回答しております。

市民から焼却炉の撤去状況についてご質問があり、撤去済みの旨を回答しております。

市議会では、陳情・請願は無く、9月の決算特別委員会及び2月の予算等特別委員会で質問がありました。主な内容は、連絡会議の開催状況や協定の締結に関するもののほか湘南ヘルスイノベーションパークの環境安全対策は大丈夫か、広く市民も参加する協議会を設置すべきとの質問がありました。市からは、連絡会議は環境保全に関する協定と同様に三者によるものであること、安全性については、入居している企業が環境保全に関する協

定を含めた各種規定を順守することはもちろん、湘南ヘルスイノベーションパーク全体の環境安全管理を武田薬品工業が責任をもって行うことや、藤沢市も立入検査等で安全性について十分に確認していくことをお答えしています。協議会については、現在の連絡会議で周辺町内会の皆様とコミュニケーションをとっており、十分に機能していると答えております。

藤沢市環境保全課による立入検査については、湘南ヘルスイノベーションパークの利用規約の確認、防災環境のパトロール記録や法令に基づく測定結果等を検査した結果、施設の安全体制は確保できていることを確認しております。

(2) 湘南アイパークからの報告

1) 2021年度「環境測定結果報告」

環境保全協定に記載されている環境5項目の測定スケジュールを記載しています。排水は月に1回、排気はガスエンジンとボイラーがあり、年2回9月と3月に測定しています。騒音振動については年4回、敷地境界線で測定しています。臭気については、年1回、最も暑く臭いが強い8月に測定しております。

排水は年間通じて測定しており、最大値と最小値を記載しております。有機物、重金属については緑枠が目標管理値ですが、管理目標の中に納まっています。塩素系の有機溶剤についても管理目標値を超えることはありませんでした。

排ガスについては、ボイラー・ガスエンジンの値を示しています。緑枠が管理目標値で青枠が測定値です。すべて管理目標値以下でした。

騒音については、敷地境界線で朝、昼、夕と夜の4回測定しております。8月に蝉の鳴き声による超過がありました。研究所に起因する騒音ではありません。

振動については、敷地境界で昼と夜に測定しており、こちらもすべて管理目標値以下でした。

臭気については、東西南北4か所で測定しております。管理目標以下でした。

地下水については、フッ素、ヒ素、六価クロム、鉛の4項目について地下水のモニタリングを行っています。サンプリング箇所は敷地を取り囲むように9か所で、年に4回4月、7月、10月、1月に測定をおこないました。結果は六価クロムと鉛については、すべての箇所で検出限界未満でした。ヒ素については1か所だけ検出はされましたが、地下水基準以下で問題ありません。全体として過去数年間、数値に変化はありません。引き続きモニタリングを行ってまいります。フッ素ですが、3か所で基準超過が見られました。基準0.8 mg/Lに対して最も高い数値で2倍の1.6 mg/Lとなっております。基準超過が見られました3か所については、建設時の環境アセスメントの時から見つかっておりまして、その当時のデータを記載しております。2011年1月のデータですが、No.1とNo.2、およびNo.8と3か所で現在とほぼ同じ数値となっております。フッ素の地下水基準ですが、井戸水を毎日2L、70年間飲み続けて健康に影響があるレベルとして設定されておりますので、井戸水を大量に飲まなければ健康に問題ありませんので安心していただければと思います。今後も測定値をモニタリングして数値の上昇などの兆候があれば対策を行う予定です。フッ素については、建設時の環境アセスメントで自然由来と推察されております。

2) 湘南ヘルスイノベーションパークの近況

アイパーク誕生時からお示ししている『革新的なアイデアを社会実装する、単なる研究で終わらずに、そのイノベーションがしっかりと社会に実現すること』を目指しております。Missionは『世界に開かれたライフサイエンスエコシステムの構築』ということで、ここで色々なものが生まれ、変化・成長していく、というエコシステムを作りたいと思っております。産官学、隣に大きな病院もありますし、今一番求められておりますスタートアップの育成を含めダイナミックな場にしていきたいと考えております。

4年前のスタート時は、19社でした。そこからメンバーシップを含めて140を超える企業に集まって頂いております。登録されている人数が2200名を超えてきました。製薬企業は武田薬品をはじめとして、田辺三菱、あすか製薬、マルホなども入居されました。創薬では創薬ベンチャーといわれるスタートアップの方々、さらには次世代医療の再生医療、細胞治療、遺伝子治療、mRNA 医薬といった新しい治療を研究されているの方々、それを支援する企業に入所頂いております。

研究機器、医療機器、AI、IoT、ビジネスサポート、金融、商社に至るまで、ヘルスイノベーションを志されるのであれば、入居頂いております。基本的にはオープンイノベーションに興味があり、交流して新しいものを作りたいという方々にコミュニティーに加わって頂いている状況です。

2019年5月、神奈川県、藤沢市、鎌倉市、湘南鎌倉総合病院とアイパーク5者で、このエリアを最先端のヘルスイノベーションの拠点にしていくという覚書を交わしました。最先端のヘルスイノベーション拠点とは具体的には次に挙げる3つの要素から成り立ちます。

1 『次世代の健康管理』としては、このエリアにお住いの方々が最新のDX (digital transformation) の恩恵が受けられ、健康管理ができることに貢献できたらと考えております。電子カルテなどの共有化支援なども含め、普段の未病段階の健康管理や疾病になったとき、あるいはコロナのオンライン診療や災害時の医療など、個人の生活や疾病・健康管理に関して希望に応じてサービスを受けたりアドバイスを得られたりできるような世界です。そんなヘルスイノベーションの拠点を目指して多方面においてアカデミアの先生方や企業と検討をはじめています。このような方向性に賛同いただき、各種実証実験の参加者が自然に集まるようなまちにしていけたらと、考えております。

2 『ヘルスケア MaaS (Mobility as a Service)』いわゆるモビリティサービスのヘルスケア版なのですが、移動がサービスでつながっていくという概念ですが、例えば病院にアクセスされる時にその移動の中で、血圧や体温などが病院等に転送されていけば非常に効率的に医療につながるということです。この実証実験を12月にさせていただきました。横浜国大と研究拠点として、今年の11月にも実証実験をしたいと思っております。

3 『スポーツ振興』は、このエリアの皆様がスポーツを見るのもするのも盛んなエリアにしていきたいということで、スポーツ科学の実証実験やウォーキングコース、ランニングコースなどが充実した、住みやすい、動きやすいまちの実現に貢献していきたいと考えます。これらの分科会活動は皆様の賛同があって初めて実のあるものになると思っております。

で今後ともご理解、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

昨年度からアイパーク内に湘南コーナーを作り、建物模型やエリアの写真・イラストを歴史・未来といった形で時系列に展示しました。またコロナの状況次第ですが、今年の夏は親子科学教室も復活させていきたいと思っております。またエリアの中学校の先生とプロジェクトを始めまして、サイエンスにお子さんたちがどうやったら触れられるか、再生医療をどうやってわかりやすく、馴染みやすくしていけるかというプロジェクトを現在考えております。

未来共創セッションというのは、藤沢市の主催でこのエリアでどのような未来を一緒につくっていくかをテーマに、集まっていたいただいた方たちとセッションをさせていただきました。このセッションで未来を語ることができましたので、このつながりもこれから大切にしていきたいと思っております。

3) 三井住友信託銀行・KJR マネジメントの協業体制における環境保全に関する責任と対応について

当初、湘南アイパークの土地建物は武田薬品工業が所有していましたが、2020年に三井住友信託銀行に譲渡されて、所有権が移っております。

これは不動産信託受益権スキームといいまして、所有者の三井住友信託銀行が自ら判断して物事を行うことができない仕組みになっておりますので、その不動産（湘南アイパーク）の運用の指図をするのが、資産運用会社のKJR マネジメントとなっております。

運用の指図とは、所有者兼信託受託者である三井住友信託銀行に対し、信託財産（湘南アイパークの土地・建物）の管理・運用について指図することです。

ただし、実際に湘南アイパークの施設管理・運営をするのは三井住友信託銀行から業務委託をお願いしている武田薬品工業という形になります。

現在の資産運用会社はKJRMと記載がありますが、今年4月28日付で株主が変わっており、社名も以前の三菱商事UBSリアリティからKJR マネジメントへと変わっております。

これは、以前は三菱商事が51%、UBSアセットマネジメントが49%の株式を保有しておりましたが、KKRという米国のファンド傘下の会社(76KK)にこれらの株式が譲渡されたことによるものです。

3 質疑

町内会 去年の12月無人バスに乗り、初めての体験で、血圧等自動測定される、座っていただけなのですが、車といってもすごい技術があるのだと感心しました。それが今後地域の中で動けるとなると、今後高齢者が増えてくるなかで、そういうものが動き回って人の健康管理とか見てくれるかと思うとすばらしいと思う。新駅ができるのに合わせて、街づくりなんかはまだまだこれから地域みなさんと考えていくことになるが、移動手段として、無人タクシーやシャトルバスがこの地域を走り回ってくれると助かる。

アイパーク 段階を踏んでということになるかと思いますが、自動運転車というのは究極になりますので、初年度としては結構究極の未来のカタチをイメージいただければと考えました。実装においてはまずはオンデマンドとして、今ここからここに行きたいんだ、という人がスマホ上で伝え、近くにこういう方たちがいらっしやるから乗り合いで拾って行きましょうというのを有人運転でいかにネットワークを作っていくかという段階があって、そこから段々自動化に代わってということになるかと思いますが。自動運転が盛んになると世の中が自動車だらけになり、とんでもない渋滞がおこるため、乗り合いにしなければ意味がないという意見もあります。新しいテクノロジーは地域の状況に合わせて初めて有効に機能すると考えておりますので、そこを皆様と実証しながらデザインしていきたいと思っております。

町内会 2200人、アイパーク内に社員がいらっしやると、常に2200人がいらっしやるわけではないと思っておりますが、地域住民には若い世代の人もたくさんいて、その中にはアイパーク従業員の方もいて、大災害が起きた時にアイパークさんとして従業員に対してどのように対応されるのか。

アイパーク 従業員に対する備蓄等は整えております。ですので、一時的にここに避難して一定期間対応はできる状態です。もちろん非常事態というなかで、例えばこういったスペースなどをどのように活用するかは状況に応じて臨機応変に対応していきたいと思っております。

町内会 若い世代の单身の方もいると思うのですが、アイパークの従業員の方が住民にいらっしやって自治会・町内会に入っていない人もいて、広報を配れない、誰が入居しているか顔が見られない、災害の時に町内で助け合っていこうよというのをやっていっているが、自治会に加入されていない若い世代がどうされるのか心配しています。大災害が起きたら、会社に来なさいと言ってもらっているのであれば安心かなと思っております。大災害が起きた時にパニックにならないように道筋をつくっておいて欲しいと思っております。

町内会 スポーツ振興分科会があるということですが、ヘルスイノベーションパーク周辺のスポーツ振興をとらえているのか、世の中に対してのという大きな話なのかなというのがよくわからなかったのですが。

アイパーク 両方です。ここが発信基地になって世の中全体へアプローチをかけていこうというのが目的となります。拠点としてこのヘルスイノベーションで研究・開発をし、実証を繰り返して行っていきたいと思っておりますし、実際にご参加いただく方が、効果があったとか、使いやすかったとか、そういったことをこのエリアの方々と一緒に研究していければと思っております。そう意味では両方になります。

町内会 小学生の子供をもっている身としては地域のスポーツ振興にこれだけ大きな規模の会社さんが地域に向かって協力してくれるというのは非常に頼もしい

と思っています。具体的なプランはまだないですが、地域ぐるみでできるところがあれば協力していきたい。

アイパーク 我々が苦戦しているのは、あるイベントをしても、広報が行き届かず、知らされないまま当日が来てしまうことです。12月の実証実験も、毎週末1ヵ月間行いましたが、予定数1000名で、実際は600名程度に終わりました。早めの準備と更なる広報活動の工夫をしますので、皆様の協力も頂戴して一緒に盛り上げて頂けたら幸いです。

町内会 この辺はスポーツしている方も多くて、夜に走っている人も多いのですが、武田の裏のところの森になっているところが、少し暗くなっているのですが、その辺りをもう少し明るくしたりできないですか。従業員の方も出てくる所の照明の照度が若干くらいかなと。鎌倉に抜ける道で、武田さん側が少し暗くて見えない。

アイパーク 敷地内の照明であれば検討するのも可能ですが、道を照らすということになると1企業ではどうすることも。現場を確認します。

市 担当課ではないのではっきりは言えませんが、市道であれば道路管理者の方と相談してというかたちになるかと思います。さきほど言われたように市道を武田さんの照明をもって照らすとなると目的がちがうことにもなりますので、また関係課と調整になるかと思います。

町内会 地域とのつながりを大切にという考え方の中で、災害時に何か地域に関して考えられていることがあれば伺いたい。考えていなければ、そういう考えはあるのか、期待していいのか伺いたい

アイパーク 敷地が広いので災害のレベルにもよりますが、状況に応じて、このような場所を一時避難としてお使いいただくのは可能かと思います。具体的な指針はもっていないが、周りの状況に応じて部分的な開放は可能です。

町内会 例えば飲み水の供給とかは考えられるのか

アイパーク ライフラインとしてこの施設に関しての飲み水が遮断されてしまえば、もちろんそこまでということにはなりません。という状況です

町内会 井戸水の活用は

アイパーク 飲用井戸ではないので、飲用の対応は考えていません。

町内会 2011年のフッ素の数値、2022年の数値。最初は自然由来と推察されるとなっていますが、どういうことですか。数値が変わっていないのもう自然由来はきていなくて、おさまってきていると解釈していいのか

アイパーク 測定誤差はありますが、現在も自然由来と考えています、昔はこの辺は海だったこともあり、地層由来のフッ素が流れ続けていると考えています。

以上